

第5号

栗尾通信

発行：京都市建設局道路部道路建設課

栗尾バイパス整備事業は着実に進んでいます!!



新トンネルの大曲側坑口イメージ

みなさん、こんにちは。

第4号で皆さんにお知らせしたとおり、栗尾バイパスのルートについては、「最も良い」と考えられる案を皆さんとともに選定することができました。

現在、私たちは国土交通省に、「どのように考えて」ルート案を決定したのかという説明を行うとともに、バイパスと現国道との交差点や、新設する歩道などについても、より使いやすくなるよう道路の計画を練っています。

これらの作業は皆さんから見えづらく、「京都市は何をやっているんだろう?」事業はきちんと進んでいるのだ

ろうか?」と、ご心配になるかもしれませんが、「栗尾バイパス整備事業は、一步一步、着実に前進しています!!」

これからも、栗尾バイパス整備事業にご理解、ご協力をよろしくお願いします。

用地測量にご協力をお願いします

前述しましたように、栗尾バイパス整備事業は今、なかなか目立った動きの見えない時期になっていますが、今年度はバイパスが通る地域を中心とした「用地測量」を精力的に行っていきたいと思っています。

「用地測量」は、これから事業を進めるうえで必要となる「用地買収」などのための、最も基礎的な資料となる非常に大事なものです。作業としては、国や京都市などの公所有地と私有地との境界はもちろん、私有地同士の境界も、皆さんの立会いのもとで明確にし、図面にあらわしていくもので、実際に栗尾バイパスに大事な土地をご協力いただく箇所だけでなくもう少し広い範囲について皆さんと立会いをし、測量を行っていきたいと考えています。

栗尾バイパス整備のために必要な用地については、まだ皆さんにはっきりとお示ししておらず、周辺の方々には「自宅が事業影響範囲に入るのではないだろうか?」と、やきもきさせてしまっているかと思いますが、もうしばらくお待ちください。そして、用地測量へのご協力をよろしくお願いいたします。

周山通信(?)第1号

さて、今回の「栗尾通信」は、栗尾バイパス整備事業とともに、私たち道路建設課で京北町・京都市合併に伴う事業として進めています、「周山バイパス(周山道路)」の事業概要や進捗状況についてお知らせしたいと思います。「周山バイパス」整備事業についても、栗尾バイパスと同様、皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

事業の効果とこれまでの経過

周山バイパスは、近年の増加する自動車交通に対応し、主に周山町中心部への通過交通を排除するとともに、右京区役所京北出張所(旧京北町役場)や小中学校等を利用される歩行者の皆さんの安全確保を目的として計画されました。

この周山バイパスは栗尾バイパスとつながることから、これら2つのバイパスが完成すると、国道162号の利便性は更に向上することになります。

事業は平成3年度に京都府によって着手され、平成14年度には南工区(国道477号との交差点(ウッディ京北前)から南へ約660mの区間)の供用を開始しました。京北町・京都市の合併に伴い平成17年度からは、京都市が事業を引き継ぎ、現在、国道477号以北の整備を進めています。

大雪、水難、乗り越えて...

昨冬の大雪の影響で工事がやや遅れていましたが、太田橋から南に向かう排水施設等の整備を鋭意進めており、右の写真に写っている周山中学校の西側にあった丘(約30,000m³)の掘削も既に完了し、本ページの一番下の横長写真のような状態となっていました。この時、弓削川側から見ると、昔の地層が確認でき、斜面の上の方に弓削川の昔の川底(!?)と思われる線を確認することもできました。

工事は、国道477号から弓削川に架かる太田橋までほ

周山バイパスの概要

延長	全 体 : L = 2,000m (南工区 : L = 660m) (北工区 : L = 1,340m)
幅員	全 幅 : W = 12.0m (車道 : W = 6.5m) (歩道 : W = 3.5m(片側のみ))
昨年度の取り組み	10月 交差点詳細設計開始 11月 道路改築工事開始 12月 法面地質調査開始



北工区工事着手前
(国道477号から北側)

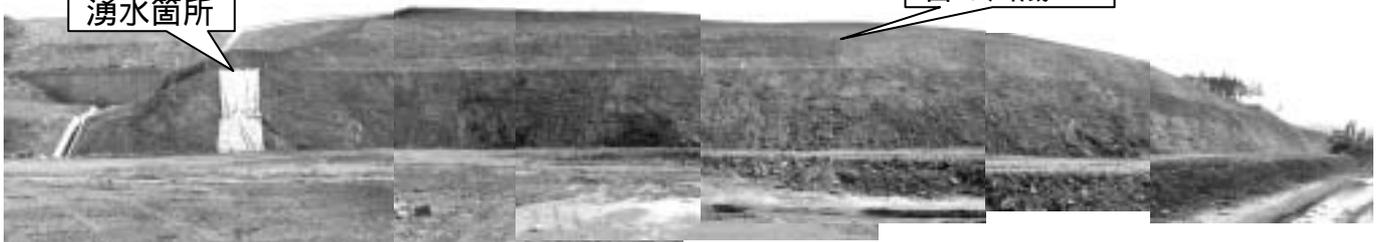
平成15年に完成した
太田橋周辺の状況

周山中学校西側の
丘だった場所です
(撮影は3月末)



湧水箇所

昔の川底?



ば終わっていましたが、中学校西側の丘を掘削した際、斜面の一部から多量の湧水が確認され、地質的に弱い部分も現われたため、急遽対策を検討、5月中頃から着手しました。

このように、大雪、湧水、弱い地層等、たくさんの課題はありましたが、なんとか乗り越えることができ、事業は着実に進んでいます。また、周辺にお住まいの方々や地権者の方々からも、温かいご指導ご協力をいただいています。



昨年12月の大雪



山から流れる地下水が道路に溜まったこともありましたが、有孔管(穴あき管 写真右)を地中に埋めて対応。もう、大丈夫です!



来春の完成を目指して

今年度京都市は、残る北工区の道路工事や現国道162号、国道477号との取付け部にできる交差点の改築を行い、地元の方々そして京都府職員の方々等、多くの皆さんの長年にわたるご尽力で進めてこられた事業を、一日も早く完成できるように取り組み、そして平成19年3月のバイパス完成、供用開始を目指してこれからも頑張っている事業を進めますので、皆様のご協力をお願いいたします。

周山バイパスの担当者を紹介します

周山バイパスの工事を担当しています陰地(“おんぢ”とよみます)です。工事を担当してから1年以上が過ぎ、京北の土地、自然環境に大変愛着がわいてきています。

この周山バイパスが皆様に愛される道路になるよう、来春の完成を目指し、頑張っています。

どうぞ、よろしく願います。



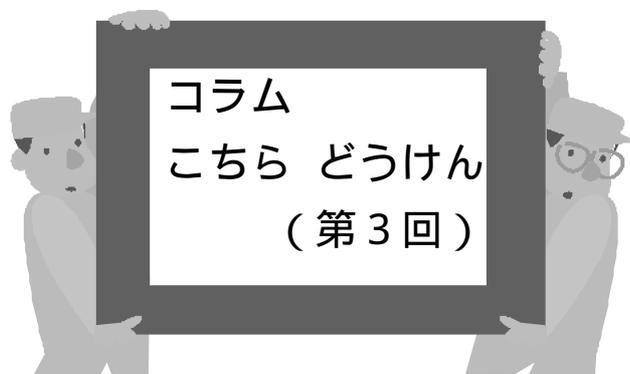
皆さん、こんにちは。私は道路建設課で栗尾バイパス整備事業を担当している高橋と申します。

今回の『コラム こちら どうけん』は、前回、予告(?)していましたが、「トンネル建設と周辺環境」について、私の考えをお話しします。

周辺環境ってなんだろう？

まず、一口に「周辺環境」と言っていますが、「周辺環境」とは、どのようなものでしょうか。

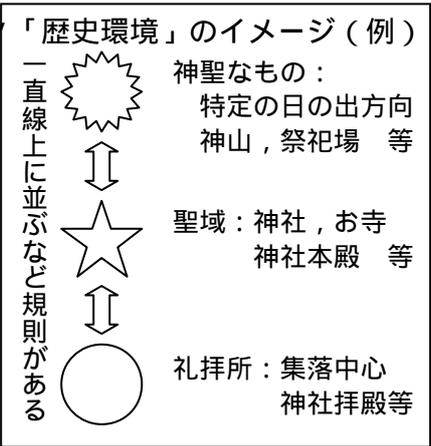
私は、「周辺環境」には3種類あるのではないかと考えています。それは、「歴史環境」「生活環境」そして「自然環境」の3つです。これらの内「自然環境」に余分な説明はいらないと思いますが、あとの2つには少しだけ説明を加えたいと思います。先ず、「歴史環境」ですが、「歴史環境」とは『人が生活することで、積み重ね、築いてきた環境』を言い、例えば、神社やお寺、石碑等といった史跡的なものから、神社は 山を向いて建っている(背にしている)」



といった場合の神社と山の関係（眺め）などといった，“史跡がその場所にある理由”までが含まれます。次に「生活環境」ですが，これは，『その場所でより快適に生活するために，創り出してきた環境』であり，例えば「地域の集会をする公民館」や「学校へ行くための道路」「以前から耕している畑」といった，“今，生活をおこなっている場所や生活の状態”をさします。

周辺環境とトンネル

このように、「歴史環境」や「生活環境」は，現在，皆さんが生活されている“場所”に関する環境であり，「自然環境」はそれを取り巻いている環境で，いずれも私たちの周辺にある環境です。そのため，地中を掘るトンネル工事については，通常の道路工事に比べて「歴史・生活環境」に与える影響は少ないと言えますが，トンネルの出入口付近では取り付け道路を建設する必要があるなど，今ある環境を変えてしまう場合があります。また，「自然環境」についてみれば，山の中に大きな筒状の構造物をつくるわけですから，周辺の大気や水の流れなどに影響を与えてしまう可能性があります。



このように，3つの環境はいずれも非常に大事なもので，全てを一気にお話ししてしまいたいところですが，今回は3つの内「歴史環境」「生活環境」についてお話しし，自然環境については次回にさせていただきます。



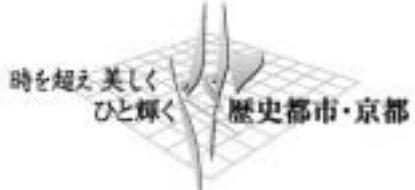
歴史・生活環境に与える影響

「歴史環境」について見ると，京北地域は平安京遷都にあたり大内裏造営のための木材を供給（山国付近がそのための基地になっていたようです...山国神社由緒より）するなど，古くから知られた木材の一大供給地であったとともに，天皇家直轄や貴族所有の荘園が多くあった土地と言われています。栗尾峠周辺を見ても，周山廃寺跡や細野の薬師寺のように今から1200～1300年前に造営された寺院（跡）や，荘園所有者に関係があったと思われる神社（細野の春日神社...北桑田郡誌よりなど）があつたりと，古い歴史に彩られた地域です。

「歴史環境」は土地が経てきた歴史や，史跡が“そこにある理由”のことであり，このような目に見えない価値を再現することは非常に難しいことなので，破壊することはもちろん，十分な検討なく変えることも慎むべきだと思います。現在計画している栗尾バイパスに関して言えば，以前に行った地域確認作業で確認できた「歴史環境」は，新しく建設する道路やトンネルが影響すると考えられる範囲内には見当たらなかったことから，栗尾バイパスが「歴史環境」に与える影響は非常に小さいと考えています。

次に「生活環境」についてみると，周山側のトンネル出入口周辺は主に植林地であり，そこから周山方面へ向かうと現国道の周囲は人家や田畑がありました。反対の細野側では集落の中を歩いていくため，人家はもちろん田畑や生活道路，ゲートボール場といった施設が多くありました。周山，細野，どちらにあるものにしても皆さんの日常生活と切り離すことができない大事なものであり，どれをとっても安易になくすことができるものではないと思います。そのため私たちは，今までの生活を大きく変えることがないように，また，より皆さんの生活が便利になるよう，関係する方々と十分話し合い，代替機能の確保に努めていきたいと考えています。

（つづく）



京都市建設局道路部道路建設課
TEL (075) 222-3580 FAX (075) 213-0241

同じです あなたとわたしの 大切さ

平成18年8月 京都市印刷物第184197号